

みあさづくり



強力煙火で 追い払おう



講習会で使用した中国製の3連発花火



美麻市と合わせて8月7日（土）に有害鳥獣追い払い煙火（動物駆逐用）保安講習会を開催しました。

この資格は市販の花火より大きな音を出す動物の追い払い効果の高い「動物駆逐用煙火」の使用や購入ができるようになるための資格講習です。今回は、各自治会から推薦をいただいた方や個人で申込んだ23名が受講しました。

講師をお願いした松本市の華松煙火さ

んから、過去に発生した事故の事例を通じて、火薬量が多い花火の安全な使い方や保管の仕方について学んだ後、実際の花火の使い方を見学しました。

実演で花火の凄まじい大音響を目の当たりにして、効果の大きさを実感しながら、使い方を誤ると大ケガにつながることも学びました。

今回の講習会を契機に地域に有資格者が増えることによって、美麻地区一番の困りごとであるサル、シカ、イノシシ、クマ等が農作物などへ与える被害を少しでも減らせるよう地域全体で取り組むことを期待しています。今後も同様の講習会を計画したいと考えておりますので、今回参加できなかった人はぜひご参加ください。

QRコードを読んでパソコンやスマホでもご覧ください。

ホームページ
美麻Wiki



facebook



83

美麻市2年ぶりの開催

夏真っ盛りの中、2年ぶりに開催した「美麻市」は、コロナウイルスの感染予防対策をしながらの開催となりました。地元の農産物や美麻の店舗のテイクアウト、美麻の木を使った木工教室、苔玉教室、美し村開拓プロジェクトのフリーマーケットなどの他、野外では青具にオープンした「ペイントボール」の体験も行われ多くの方が楽しんでいました。



源流美麻太鼓の皆さんの勇壮な演奏でスタート



木工体験でつくる楽しみを満喫

リラクゼーションの極み苔玉作り

ペイントボールの体験コーナー
でリアルなスプラトゥーン体験



地域の課題を楽しく解決



「美麻市」のメイン・イベントとして、地区の困りごとで最も関心の高いサルなどの（有害鳥獣）の追い払いをエアースリングやロケット花火を実際に使用していただく体験コーナーを設けました。

エアースリングの基本的な取り扱い方や、使用する弾は自然に分解する素材であることなどを知らせていただき、サルに見立てた的をめがけ、追い払い用具が40m程先の的まで届くことを確認していただきながら、緑日の射撃感覚で幅広い年代の皆さんに楽しく体験していただきました。

体験後には今年4月より地区内の飲食店などにメニュー開発をお願いしてきた「ジビエ料理（シカ肉）の割引券」を進呈し、食を通じた有害鳥獣対策にも協力いただきました。

地域の話題

シャワーウォーキングで自然を満喫！

美麻地区子ども会育成協議会は8月6日、白馬村平川で体験活動としてシャワーウォーキングを開催しました。この日は美麻小中学生と保護者等30人が参加し7月下旬から続く猛暑の中、涼しげなひと時を過ごしました。参加者は、ウェットスーツやライフジャケットを身につけ、ガイドや先導役の方の



アドバイスを頼りに川へと出発。自然がつくった変化に富んだ川を横断したり、滝に打たれたり、また、ラッコのように浮きながら川に流されたりとしばらくの間、猛暑を忘れてヒンヤリとした雪解け水と戯れました。

最年少の参加者、1年生の田澤ほとりちゃんは「川の水が冷たくて気持ち良かった。一番楽しかったのは、ウォータースライダーみたいに自然の川に流されるところ」と日焼けした笑顔で話していました。（美麻公民館）



“お手伝い”からボランティア活動を学ぶ



美麻小中学校の児童20人は7月28日と8月4日の両日、ボランティア活動を体験しました。“お手伝い”隊は、美麻地区子ども会育成協議会、美麻公民館、美麻地区社会福祉協議会が、子どもたちが長期休暇中、交流や作業の中からボランティア活動を体験してもらう企画です。

28日は、「ガラス絵の具」を使って絵を作成して美麻総合福祉センター梨嶺に貼る準備をしました。また4日には、畑仕事を体験、我先に、夢中になってジャガイモを掘り出し、休憩後は以前に作った「ガラス絵の具」の絵も梨嶺内のデイサービスセンターに飾りました。

参加した2年生の重田青君は絵について「初めてやったけど、いろんな色を使って隙間のないように塗るのが難しかった」。ジャガイモ収穫後に1年生の小宮山夏梨ちゃんは「畑にミミズやてんとう虫がいっぱいてビックリ。でも、いっぱい取れて良かった」と話していました。（美麻公民館）



銀座NAGANO

（長野県アンテナショップ）の広報誌で美麻地区の活動が紹介されました。

9月号の記事に定住促進やコミュニティ・スクールの取り組みが紹介されています。

記事は、ホームページでもご覧いただけます。



地域の話題

森の恵みを「いただきます」



食べて応援！有害鳥獣対策

美麻ジビエ振興会には、近年シカなどの頭数が増えて有害鳥獣対策で駆除された動物が地区外からも数多く持ち込まれているそうです。その結果、持込まれる量が加工する量を超えてしまいジビエ肉を森の恵みとして有効に活用できない状態が続いていることを知りました。

美麻地域づくり会議では、駆除や追い払い以外の方法で動物の被害を減らそうと、鹿肉を使った親子料理教室を夏休みの8月17日（火）に、ジビエ料理のプロフェッショナルである中山高原の「農園カフェラビット」児玉信子さんをお願いして美麻総合福祉センター（梨嶺）で開催しました。

メニューは「鹿肉と夏野菜のスパイスカレー& トマトのオムレツ」の

二品。児玉さんは、「高タンパク、低脂肪の鹿肉を家庭でも味わってください」とシカ肉の魅力を伝えながら参加者にプロの技を伝授してくれました。

参加者からは、「ジビエ肉料理に興味があり楽しみにしていました。」「肉を切るのが楽しかった。」「また作ってみたい。」など



の感想をいただきました。

新型コロナウイルス対策として出来上がった料理は持ち帰って自宅で食べていただきましたが、コロナが終息したらみんなで会食ができる料理教室にしたいと考えています。

当日のレシピは、ホームページに掲載していますので、ご家庭で調理してみたい方はいかがでしょうか。ジビエ肉は、美麻地区内では、新行「種山商店」「農園カフェラビット」青具「花まめや」で購入できます。



花まめや（美遊）さんでは精肉の販売が始まりました。



ほかほかランド美麻ではレストランメニューに鹿肉料理が追加されました。

地域の話題

『美し村開拓プロジェクト』に参加

(7月11日)



作業前 AM 9:00
作業後 AM 11:00



当日は梅雨の合間の晴れでムシムシとした天気。マスクがちよっと息苦しいけど我慢しつつの作業です。今回の作業は、室内の不用品分別と庭の立ち木伐採や草刈りを15人で分担して行い、僕は不用品分別を担当しました。

室内に入るとあちこち床が抜け、一部天井が落ちており…、とても住める状態ではありません。実は美麻に移住してくる前に今回のお宅を購入しようとしたことがあったので、なんだか複雑な想いです。

床や天井の状態も危険な状態でしたが、不用品の量も多

く、バラエティに富んでいて生活をしていたままになっていました。そんな状況に圧倒されながらも根気よく分別していきます。約2時間の分別を行い、作業が終わってみると玄関には分別された袋が山になっていて、室内はかなりきれいになっていましたが道のりはまだまだ長そうです。

「欲しい物は持ってっていいよ。」と言われていたので、小さな鉄鍋をお土産にいただきました。

今後も参加してこの家の行く末を見守っていこうと思いました。(大塩 齋藤英毅)

プールは楽しい～！7月23日

梅雨が明けてから毎日プールができました。この日も朝からセミがにぎやかに鳴いていてプール日和です。子供たちはプールに入り、足、体、顔と、徐々に体を水に慣らしていきます。25度くらいの温水ですが、その度に大きな歓声があがり、その声はセミにも負けていません。体が慣れたら、水かけっこをしたり、フープをくぐったり、宝探しをしたり、いろいろなことを楽しんでいます。個人差はありますが、友だちの姿に刺激を受けながら、自分に挑戦する姿も見られます。昨年より、グンと成長していますし、大きなプールに入れない子供は、好きなおもちゃをたらいに入れ、のんびりと楽しんでいます。

熱中症にならないように時々ホースで水のシャワーをかけますが、大騒ぎで逃げいきます。水の中にもぐる子もいて「キャ～！」と言ってはいるものの、「もっとかけて～！」という顔もしています。水の気持ち良さを感じながら、短い夏を楽しみました。

(園長 北村幸)



楽しかったね～8月5日

公民館の方といっしょに新行の種山博茂さんのブルーベリー畑へ行ってきました。

朝から「いっぱい取りたいな～」「取ったらジャムにしてもらんだ」「おばあちゃんのも取るの」とブルーベリー狩りをとても楽しみにしていました。到着すると、

たくさん並んでいるブルーベリーの木に目を輝かせていました。「黒いのが甘いよ」という知識もよ～く知っていて、持っていった牛乳パックのバックに山盛りいっぱい摘んでいて楽しそうでした。

種山のおじさんおばさんも手伝っていただき自分のバックがいっぱいになると、来られなかった小さいお友達や給食の先生の分まで気にかけて、摘もうとしてくれる優しい子ども達の様子がありました。園に帰ると、摘んだブルーベリーを友達と見せ合ったり、おうちの方に嬉しそうな表情で自慢したりしていました。とても貴重な経験をさせていただきありがとうございました。(保育士 中村優衣菜)



コミュニティ・スクールの話題

プール開き（1年生）

全校のトップを切って1・2年生が7月30日（金）にプール開きを行いました。この日は気温も水温もやや低めでしたが、子ども達のプールに入りたいという気持ちはマックスでした。いざプールに入ると、思った以上の冷たさに「キャ〜」と大騒ぎ。でも元気の良い子達は、水をかけると私にもかけ返して応戦。また、武田先生に持ち上げられて「ドボ〜ン」とされた子ども達は、「鼻に水が入った〜」とまたまた大騒ぎ。みんなでプールの時間を楽しみました。

（文責 1年担任 松澤 享）



夢がかなった！モリアオガエルが ぼくたちのおいけに（2年生 生活科）

「せんせ〜い、おいけにモリアオガエル、きた〜!」
6月16日（水）休み時間、2年生の子供達がお池の周りで大騒ぎ!

慌てて南庭へ出ると、池の上に枝を伸ばした栗の木を見ながら、みんな大興奮状態です。

「ゆめがかなった〜!!」（かえなさん）

「まさか、本当に来るとはねえ。木の下に（池を）つくってよかったよね。」（りゅうじさん）

「『モリアオガエルの実』がなったみたい」（まるさん）

「向こうのおいけにあったたまごより大きくない?」（あおさん）

「3こもあるしね。下に赤ちゃんおちてくるから、あそばないでおこう?」

「『大切にみつかう』ってこと!」（まるさん）



モリアオガエルのたまごの塊は、木の上に3つ、ありました。昨年度、私たちは、カエルが生きられる場所をつくりたくて、おいけを作り始めたのでした。モリアオガエルはさすがに難しかったか…と思っていた矢先の出来事。「とにかく、すごく嬉しい!」の気持ちでいっぱいになりました。（文責 2年担任 西澤沙織）

生活単元学習「夏祭りをしよう」

なしの木2組では、1学期に「夏まつりをしよう」という生活単元学習を7月20日（火）に行いました。折り紙や工作など得意なことを生かして、くじ引きの景品やしおりなどをたくさん作り、協力して準備を進めました。各学年のお友だちにお祭りのチケットを渡すと、みんな喜んで来てくれて、お店も大繁盛!お客さんへの挨拶や、やりとりの仕方などを学ぶ機会となり、よい経験ができました。（担任：塚田佳寿美）



美麻の子はたくさん質問が 出せてすごい（4年生）



この言葉は、水道見学後に市役所の方がおっしゃった言葉です。不思議に思ったこと、わからないことを聞くということは大切な学びです。

4年生は7月13日に、美麻の上下水道施設を水道課の方に、4月20日には荒井教育長先生から昔の人の暮らしの知恵を教わりました。

<水道見学の感想>

- ・新行に住んでいるけど、新行に水源地があるなんて知りませんでした。
- ・水源地の水は透き通っていて底まで見えていて、

本当にきれいだなと思いました。

- ・浄水センターでは、汚い水をきれいにして川に流していることが分かりました。

- ・町中のマンホールがある場所は、災害の時にトイレになると知って驚きました。

- ・浄水場で一番驚いたことは、ゴミや汚れを微生物が食べてきれいにしていることです。

<昔の美麻の人々の工夫についての感想>

- ・二重では、田んぼの水をすぐ横の川からとっているわけではなく、すぐく上の方の水をひいている。

- ・千見では昔、土尻川だったところの流れを変えて田んぼにしたことがびっくりしました。

- ・美麻では、川より田んぼの方が高い場所にあるため、苦労して水をひいていました。

（担任：野本和幸）



安全に楽しく黒部ダムを学ぼう！（5年生）

「いいことで楽しいのが楽しい。わるいことして楽しいのがふざける。」話し合いで楽しいの意味を確認し、題のような目標を立て、学年全員そろって校外学習に行ってきました。

7月19日（月）朝、豪華なバスが5年生を迎えてくれました。一人一列で扇沢に向かいました。



扇沢駅で電気バスに乗り換えて黒部ダムへ！電気バスは結構な混雑でした。

電気バスでの移動中に破砕帯を通過しました。その時はあっという間に感じた破砕帯でしたが、帰りには違う印象で見ることができました。

「たくさんの人が死んだ。工事は大変だった。」

「ダムをつくるのにとっても時間がかかった。すごいと思った。」

数十メートルの破砕帯でしたが、冷水を浴びながら危険な掘削工事に臨んだ人たちは、みんなに電気がいきわたるようにと命がけで工事をしたことを勉強し、そのスケールの大きさと、観光名所としての名物「破砕帯のわき水」「甘口ダムカレー」を五感で味わってきました。（担任：唐沢優佳）

手話体験～6年生

社会福祉協議会から紹介をいただいた講師の清水礼子さんをお招きして、6月24日（木）の5・6時間目に手話の体験学習を行いました。聴覚障害についての説明を聞いたり簡単な手話を教えてもらい、友達と手話で会話したりしました。「手話にあまり興味がなかったけど、やってみて大変なんだなと思いました。手話は物の形や漢字からきていることが分かったし、自分の名字（名前）もできるようになって良かったです。」「手話にも方言のようなことがあると分かってよかったです。」「今日の体験で、今後、あいさつや自分の名前を伝えるのに生かせそうだなーと思いました。」子どもたちは、体験を通して手話が少し身近に感じられたようでした。

（文責 6年担任 志水宏靖）



しらかば手づくり屋



白樺2組では、生活単元学習の1つの活動として「白樺ベーカリー」と「しらかば手づくり屋」をしています。白樺ベーカリーではパウンドケーキを、しらかば手づくり屋では手づくり製品を販売しています。7月6日（火）の参観日には保護者の皆様向けにも開店し、たくさんのお客さんに来て頂きました。丁寧な言葉づかいを心がけたり、会計の仕事を担当したりすることを通して普段できない経験をすることができました。販売で得た売り上げは、今後自分たちに必要な物を購入したり校外学習に出かけたりして、社会人に向けての学習活動に使わせていただきます。お店に来て下さった皆様、ありがとうございました。（担任：森田奈苗）

自分たちで・自分たちの学びの意味を考える ～生徒が考える学びの集会～（8年生）

7月5日（木）朝、8年生MHさん企画「生徒が考える学びの集会」で対話のよさについて考えました。今まで、学びの集会は教員から投げかける形が主でしたが、今回、（おそらく美麻史上）初めて生徒発の形で学びの集会が行われました。

自分たちで学びの意味を考えている児童・生徒の皆さんは、美麻小中学校の目指す『自律した学習者』にむけて大きな一歩を踏み出していると感じました。今回で終えることなく、第2回、第3回と回数を重ねながら、児童・生徒の皆さんと教員全員で、美麻小中学校の学びを創り上げていくことができたらとワクワクしています。

◆ 対話のよさについて出た意見

・他の人の意見を知り、別の見方から考えを深めることができる。

- ・自分の考えを改めてわかることができる。
- ・自分を成長させるための対話。
- ・対話と会話のちがいについて考えた。
- ・少人数だと自分の意見が言いやすい。

（担任：村田 茜）



唐松岳登山登頂で完全夢結の学期を締めくくりました！（7年生）



ゴンドラ&リフト 足がコバイケイソウに触れました。いよいよ



登山 まだまだ 余裕！！



扇雪溪！

何度も登っては、ケツすべり！！



山頂アタック！



ライチョウの親子にも遭遇！！



下山途中 しっかり晴れ渡り、不帰から白馬三山の絶景が、八方池に映った！！



中学一年生としての学校生活が始まっておよそ4ヶ月。担任が替わり新たなスタートを切った7年生ですが、7/21（水）で1学期が終了しました。戸惑うことや初めてのこともあったと思いますが、がんばりぬいて毎日の学校生活や様々な行事や活動を通して成長を感じました。

7/19（月）8年生と唐松岳登山を成功させました。ジャンプ期生の姿から学び、これからますます成長を遂げていってくれることと思います。なんだかんだ言いながら、前に進む7・8年生はたくましく頼もしかったです。これが乗り越えられたのだから、きっと次の困難も乗り越えられる！！2学期も頑張ろう！！

うちの花豆 つながれ美麻 途中経過（9年生）

花豆を追究し始めて3年目。「うちの花豆、つながれ美麻」のスローガンのもと、地域の方々にインタビューをしたり、実際に栽培をしたり、商品を共同開発したりしています。

今年は、最終年なので地域の皆様への感謝を形

にしたいと思い、3年間蓄えた物を「花豆BOOK（仮）」として製作することを目標にしています。これからも応援していただきますよう、よろしくお願いいたします。

（花MAME株式会社 社長 阿久津幸太）



← 頂ベーカリーさん（旭町）商品開発等にアドバイスをいただきました。

→ 栽培農家を訪問 → 花豆栽培のノウハウをお聞きしました。



新会員紹介

美麻地域づくり会議に参加いただいた新会員（団体）を紹介します。

ALPyon（アルピオン）キャンプ学校

不登校児童生徒を支援する学校以外の「学びの場」として2020年4月から始まった認可外の民間施設です。子供たちを囲む環境全てが居場所であり学びの場という考えで、保護者とボランティアの方たちがサポートしながら作り始めました。

この施設は不登校の子供だけでなく、すべての子供たちに開かれた場所で大人たちと共に考え、学び、創るコミュニティの創設を目指しています。ここでは、美麻の豊かな自然環境を生かし、古民家を中心とした簡素な設備と家庭的な雰囲気の中で、四季を感じながら子供たちが生きるために必要な根本的な力をつけていけるようお手伝いをしています。

また、各年代の子供たちの関りの中でもコミュニケーションを学んでいきます。

現在、猫2匹・ウサギ2羽の他に10月までは梓川から馬を1頭預かっていて子供たちの大事なパートナーとなっています。

開校 毎週、火・水曜日

午前10時～午後3時まで

対象 小学校1年生から中学校3年生

参加費 一律1000円（教材費・食材費）

お問い合わせ 美麻二重宮村8008 川崎陽子

連絡先 Tel.080-3907-4005

「PTA賛助会員協力金のお礼」

日頃より美麻小中学校PTA活動にご理解とご支援を賜り、感謝申し上げます。また、今年度のPTA賛助会員協力金におきましては、多くの方のご協力をいただき誠にありがとうございました。

昨年はコロナウィルス感染防止のため活動が少なく、賛助会員協力金の徴収を見送りましたが、有意義なPTA活動をしていくためには賛助会員の方のご協力は不可欠だと感じ賛助会員協力金をお願いをさせていただきました。今年もコロナ禍では

ありますが、できる限りの活動をしたいと思い計画しております。

地域のまんなかには学校がある、学校のことは地域ぐるみで支える。そんな考えのもと、学校に通う子供のない世帯からも協力金をいただき、活動資金とさせていただきます。今後も魅力ある学校づくりのためご協力をよろしくお願いいたします。

（美麻小中学校PTA会長 中村秀明）



25年前のタイムカプセル開封

平成7年当時美麻小中学校に在籍をしていた生徒の約半数と、当時の先生の参加をいただき「美麻小中学校20周年タイムカプセル開封イベント」を行いました。出席された先生は「こういう機会をいただき元気をもらった」とお話をいただき、私も現在教員になって教え子と良い関係を作れるようになれたらいいなと思いました。私がタイムカプセルに入れたものは、当時のサッカーグッズで想像をしていた物とは違いました。皆が集まったときに北沢和也君から事故で亡くなった伊藤渉君の思い出話をしてくれ、渉君が残した物を見ながら私にとっても大切な存在だったと改めて感じました。

（参加者 竹内均）



「北アルプス国際芸術祭 2020-2021」開催



大町市の豊かな自然と誇るべき歴史・文化とマッチした現代アート作品に触れていただき、非日常的な空間における、気持ちの安らぎを市民の皆様にもご提供いたします。

参加アーティストは、11の国や地域から38組参加され、美麻地区でも二人のアーティストによる作品が制作されます。

「水、木、土、空」をコンセプトにアーティストが織りなす素敵な作品を是非ご鑑賞ください。

*前売り作品鑑賞パスポートは美麻支所でも販売をしています。

一般 2000円(当日3000円)

16歳~18歳 1000円(当日1500円)

15歳以下 無料(当日無料)

◇会期の内容

●パフォーマンス会期 8/21~10/3

●アート会期 10/2~11/21

※詳しくは、ホームページにてご確認ください。

北アルプス国際芸術祭実行委員会事務局

大町市役所まちづくり交流課国際芸術祭推進担当内

TEL: 0261-85-0133

Email: info@shinano-omachi.jp



⑲ 衝突(あるいは裂け目)

設置場所/美麻・旧教員住宅

美麻にある2軒の旧教員住宅が舞台。かつて校長先生と教頭先生の宿舎だったという隣り合う2の家が姿を変える。お互いを隔っていた物理的な距離、壁、境が変化し、圧倒的な力量によってぶつかり、重なり合う。隣り合う2軒の家というごく当たり前の関係性が崩壊し、鑑賞者それぞれによって再構築される。日本列島を東西に分断するフォッサマグナの西の縁に位置し、活発な地殻変動を繰り返し、隆起し、削り取られてきたこの土地で、家という不動であるはずのものを動かし、変化させることに挑む。

持田 敦子



1989年 東京生まれ/長野在住。既存住宅の一部を円形にカットし回転させた『家の回転』など、日常空間や公共空間に介入し、空間の意味や質を変容させるような建築的なインスタレーションを行う。



⑳ いのちの記憶

設置場所/美麻・二重屋内ゲートボール場

屋内ゲートボール場内を漆黒の世界に換え、銀河の世界をつくりだす。建物のなかを進むと、唯一外とのつながりを持つ自然光を取り入れた光ファイバーが大量の光の粒となって見えてくる。そのひとつひとつの光は瞬き、光の全体は天候の変化に伴ってゆっくりと呼吸するかのように明るさが変化する。大気の動きや地球の息吹、漆黒の空間で自分自身もひとつの生き物であると優しく思い起こさせ、銀河の穏やかな時間を感じさせる作品。

青島 左門



1980年 静岡生まれ/在住。彫刻、絵画、コンセプチュアルアート、舞台美術、絵本など多様な表現手段で、文明が自然に調和するための方法や、「いのちとは何か?」を探求する。

「静の桜」倒伏後の現状について (お知らせ)

長野県の天然記念物で美麻地区でも親しまれていた「静の桜」が6月5日に倒伏をして3カ月が過ぎようとしています。現在までの対策について状況をお知らせします。倒伏した直後から県教育委員会や県文化財審議会の井田信州大学教授(植物分野担当)・北アルプス森林組合の小山樹木医・樹木医会(県内樹木医による任意団体)などの方々から現地を確認していただき対応を続けています。根の張りが弱くて短く、樹皮が乾燥をしていて樹木をもと通り再生するのは困難であろうとの意見から次のような対応を行っています。

○国の専門機関「林木育種センター」に静の桜のクローンによる苗木1本が育成されていることを確認したので、さし木による再増殖を依頼し対応中。(6月17日)

○天然記念物の指定は直ちに解除にはならず今後の状況で検討をする。(6月30日)

○延命処置として、葉面栄養剤、蒸散抑制剤、殺虫剤(毛虫)の散布を9月まで行う。(7月2日)

○薬剤散布以外に、露出した根元をコンパネ等で囲い、土を入れて乾燥を防ぐ。(7月7日)

現在も大勢の方々にご協力をいただき対策を進めていますので、温かく見守っていただければと思います。(文化財センター)

連載

大町風土の里づくり人への会
美麻の口碑伝説
 ～語り継ぐ郷土の心～

八

実のならぬ李(スモモ)

(今回は、二重の話)

昔、横山某(なにがし)という近郷きつての資産家がいた。大勢の下男下女を使い、人もうらやむ程の山の中としては派手な暮らし向きであったが、その家の者は欲張り者ばかりで村人の評判は悪かった。

旅人が行き暮れて一夜の宿を借りても、まずお金を持っている人しか泊めず、そして不思議なことに昨夜泊ったはずの旅人の姿を翌朝見た人はいなかった。ある夕方、雨の中疲れた一人の行脚(あんぎゃ)僧(そう)がやって来た。粗末な衣をまとい大きな袋を背負っていた。

家でも一番欲張りな婆さんが出てきて、旅僧の背中の大きな袋に目をやるなり、快く返事をしてもてなした。夜更けて婆さんが抜き足で旅僧に近寄り、手には不気味に光る斧を持ち、一撃のもとに殺してしまった。



※実のならない李の木は、今は枯れてしまったが李ではなく「マユミ」の木だったと言われています。

婆さんは僧侶が寝る前に布団の中に入れておいた風呂敷包みの大きなのを引き出して包みをほどいた。中からは金も小判も出てこなかった。出てきたものは、真っ赤に熟した李(スモモ)の実だった。婆さんはそれを見るなりびっくり仰天して気が狂い、翌日から村中を狂い廻りついに死んでしまった。それから、この家に不幸なことが続いて婆さんのように皆気が狂って死んでいった。とうとう家皆死に絶えてしまった。

そして、不思議なことには、実のならない李の木がその付近に生えるようになった。

つながれ地域のお店⑨ — 花まめや —


加わり、現在は冷凍の鹿肉も購入いただけるようになっていきます。

店の名前でもある花豆のお菓子は、花豆アイスや、パフェ、コーヒーフロート、花豆ティラミスをお出ししています。コーヒーやチャイには、甘い花豆煮を添え、花豆の魅力を紹介しています。

その他、スパイス料理教室や、木の小物を作るワークショップなども、月回開催しています。店内の椅子やテーブル、木のお皿などは手作りで、温かさのある店内となっていますので気軽にお立ち寄りください。

■営業時間：午前9時30分～午後1時30分
 (土日祭の午後1時30分以降は相談下さい。)

■定休日：月曜日

■☎ 080-2212-3831

メール：miyumiyukithen@icloud.com

■店主 青空フーズ 鈴木 幸(二重)

ほかほかランド美麻「美遊」内に、7月にオープンしました。今年の春からお店作りに関わって下さった方々、本当にありがとうございました。

これから、「花まめや」から楽しいことが生まれ、地域に必要な場所として成長していけたらと願います。新行の種山博茂さんより、美麻の鹿肉を勧められ、生地から手作りの鹿キーマのチャパティーロールを開発し、続いて鹿のキーマカレーがメニューに

編集発行 美麻地域づくり会議

住所 大町市美麻11810-1 電話29-2311・FAX29-2333・電子メール info@miasa.info